

# 本社充填所移設工事完了、函館臨空工業団地にて12月稼働予定

## 函館酸素

大陽日酸グループの函館酸素（坂本雅博社長）は、今年2月より進めてきた同市高台にある函館臨空工業団地への本社充填所および容器再検査所、容器貯蔵庫の移設工事が完了し11月9日、『臨空事業所』としての竣工式を開催した。稼働は本年12月を予定、同取り組みは本誌No.900（11月15日号）で既報のとおり、今年3月に迎えた同社創立80周年の記念事業として行われたものである。



臨空事業所外観

現在同社の充填所は函館湾に面した本社構内に立地していることから、万が一地震や津波など自然災害が発生し、生産設備および物流機能が被害を受けた場合には、地域の医療・産業へのガス供給に大きな影響を与えることが懸念されていた。今回の高台移設は、それらリスクの低減が主目的となる。

1万7092㎡の敷地面積には、冒頭記した充填所および容器再検査所、容器貯蔵庫に加え、タンクはL O 20トン×2、L N 10トン、L Ar 10トン、L C O<sub>2</sub> 15トンをレイアウト。ポンプ性能はそれぞれ酸素約300㎡/h（充填口数60口）、窒素約230㎡/h（同30口）、アルゴン約300㎡/h（同30口）、炭酸ガス約700L/h（同2口）で、医療用酸素ガスと産業用ガス（酸素・窒素・アルゴン・炭酸・混合ガス・空気）を生産する。また12月の稼働と同時に、物流機能を司るローリー・トラック基地も同事業所に移転することで、更なる災害対策の強化を図る。

そのほか同社では移設に伴う改善点として、製成品在庫量・原料備蓄量を従来比2〜3倍増、自動化設備・効率化設備

の導入による生産性向上、効率のレイアウトによる作業性向上、最新設備への更新による保安・品質の向上などを挙げており、今後については「2020年度に函館空港まで延

伸予定である函館新外環状道路の完成により、物流面での利便性も格段に向上することから、一層の安定供給体制強化・顧客サービス向上が期待できる」としている。

## ステンレスチューブ等の『Press Vac』ブランドで国内の品薄に対応

### バリユーンパケット

韓国のTKFやDK・LOKなどのバルブ、継手、フィルター類を販売するテクニカル商社のバリユーンパケット（横浜市中区、榎本和則社長）は、国内の半導体市況の活況が続くなか、品薄になりがちな製品への対応力を高めるため新たにステンレスチューブ類などの『Press Vac』ブランドを立ち上げ、販売を開始した。

榎本社長によると、「国内

メーカー製チューブを販売してきたが、昨年より即納がで



新『Press Vac』ブランドのステンレスチューブ



横浜技術センタークリーンブースでの Press Vac チューブ加工風景

きない状況」など、ステンレスチューブ類の慢性的な品薄状態が続いているという。「半導体関連で採用されるステンレスチューブ、パイプ類は日本メーカーのシェアが高く、韓国メーカーもあるが日本製ステンレスチューブを韓国で電解研磨しているケースが多い。当社も日本メーカーのチューブを採用してきたが、納期が掛かり過ぎることから、ガスメーカーや装置メーカー様と、韓国と台湾のチューブメーカーを共同調査。オール韓国製であるMIPOTECHブランドのチューブを横浜技術センターで試験してみたところ、従来品と比較して何ら問題はなくコストパフォーマンスにも優れることから採用を決めた」とする。同時に新規に取り扱いを開始する韓国釜山の溶接ペローズ製品のKOREA BELLOWS、圧力計のWISE、それに従来から販売していた真空製品等の台湾EFTブランドを新たに同社独自の『Press Vac』ブランドで括り、セミコンジヤパン2018で初披露、販売強化していく。

同社取り扱いブランドの特长は、半導体や液晶向けなど、クリーン対応でありながらコ

ストパフォーマンスに優れ、また、日本の部材メーカーが相次いで供給タイトに陥るなか、安定した供給力も強みとなっている。同じく品薄気味であることから販売を伸ばすTKFのフィルターなどに続き、『Pressvac』でも、供給力と在庫調整力を活かしていくとする。「チューブは4mと長く、輸入が難しい部分もあるが、長年の輸入業務で協力してもらえ物流会社があることが強み。TKFやDK・LOKはすでにブラン

ドの知名度があるが、『Pressvac』にしたブランドはまだ殆ど知られていない無名ブランドであるため、これから日本で育てていく。共同調査したお客様以外にも採用が拡大しており、昨年開設した横浜技術センターで製造を請け負うガス供給ユニットでも採用しているため、取り扱い開始早々国内在庫を増やしていかなければいけない」と意気込む。受注の増える時期に、自社の特長をフル活用する考えだ。

エア・ウォーターは海外エンジニアリング体制の整備に注力しており、16年2月に低温容器メーカーのテラー・ワートン・マレーシア、今年2月に炭酸ガス関連機器メーカーのトムコ・システムズ・カンパニーを子会社化した。今回CVAを傘下に加えることで、さらなる事業強化を図る狙いがある。

なお今回のM&Aに合わせ、米国事業の統括会社であるエア・ウォーター・アメリカ傘下に新会社テラー・ワートン・アメリカを設立、CVAの事業を移管し、低温機器分野をテラー・ワートンブランドに統一している。CVAが加わることで、エア・ウォーターグループの米国事業は約50億円規模となる。

## 米輸送用低温機器メーカー買収

### エア・ウォーター

エア・ウォーター（豊田昌洋会長）は11月16日付で、米輸送用低温機器メーカー、クライオジェニック・ベッセル・オルタナティブズ（テキサス州ベイトウン、以下CVA）の全事業を取得した。

CVAは1999年設立、エアセパレートガスを中心とした液化ガスのトレーラーや鉄道輸送用機器を製造・販売している。テキサス州の本社近隣に製造拠点をもち、米国では液化ガストレーラーで25%、鉄道輸送用機器で30%とトップシェアを握る。17年

度の売上高は約1700万ドル（約19億円）。

## 埼玉開発センターを増設、恵山の生産能力移管

### 理研計器

理研計器（小林久悦社長）は、同社開発センター（埼玉

は、同社開発センター（埼玉県春日部市）敷地内の増設用スペースに新棟を建設し、函館工場（恵山）のセンサー生産能力を移管する。新棟は地上6階建て、約2193㎡の用地に設けられる。投資予定額は38億円。着工は19年5月、

竣工は20年6月を予定する。

函館工場（恵山）には第一・第二工場があり、電気化学式、化学テープ式、赤外線式などのセンサーを担う同社主力工場として91年4月から稼働してきた。今回、開発・生産の一元化による開発スピード向上を目的に集約化を決定、11

## 「水素はオンサイトの時代」

ハイサーブ

# 水素発生装置「HYSERVEシリーズ」

超小型

- 超コンパクトな一体型パッケージ
- プラントイメージを一掃したパッケージ仕様
- 高純度水素（99.999%以上）を発生します
- 性能はそのままに大幅なコストダウンを実現
- ワンボタンによる自動起動、停止が可能
- ネットワークによる遠隔地運転管理サービスをご提供

■仕様

機種	HYSERVE-30	HYSERVE-100	HYSERVE-300
原料		都市ガス(13A)、LPG	
水素製造能力	30 m <sup>3</sup> /h	100 m <sup>3</sup> /h	300 m <sup>3</sup> /h
水素純度	99.999vol%以上		
水素供給圧力	0.70MPaG以下		
操作性	ワンタッチ自動運転 負荷調整(40~100%)、待機運転		
最小ユニットサイズ (ローテリティーエリア向け)	一体型パッケージ 3600W×2000L×2800H	一体型パッケージ 5300W×2600L×3300H	一体型パッケージ 6500W×3000L×3400H

※原料に依り、純水製造、水処理等が必要



HYSERVE-30



詳しくは当社HPをご覧ください

Daigas Group



大阪ガスリキッド株式会社

ガス営業部 TEL.06-4706-2701 FAX.06-4706-2711